

国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

私は留学経験が無く、他の国の文化や伝統を直接体験したことはありませんでした。そんな中で、ブディルフル大学でのボランティア・プログラムの募集要項を目にしました。語学留学ではなく“ボランティア”であるのがこのプログラムの特色です。現地の人と交流し、日本とインドネシアの文化交流が主なボランティアの内容であるため、文化に興味があった私に最適なプログラムであると感じたため本プログラムへの参加を決心しました。

② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

1. ボランティア活動・ワークショップについて

私たちが行ったボランティア活動は、主に food sharing と日本文化に興味のある現地の中学生、高校生に向けたワークショップの企画・運営でした。Food sharing は約 3 週間の中で合計 3 回行い、2 回はインドネシア料理を作り、最後の回では日本食を作り詰め合わせたものを大学前の道路沿いで配りました。この活動を通して、食文化の違いを体感しました。インドネシア料理を作るときは様々な種類のスパイスと多くの油を使用しましたが、日本料理を作るときは醤油や砂糖などの数種類の調味料のみで味付けをします。実際に現地の学生と一緒に弁当を作ることで、インドネシアと日本の食文化の違いを学ぶことができました。また、数十個のお弁当を用意することは大変な作業ではありましたが、現地の学生と明治大学生と協力して作り上げたものを、喜んでくれる様子で受け取ってもらえたときはとても嬉しい気持ちになり達成感がありました。ワークショップでは、木目込み・カタカナ・たこ焼き・日本語を教える機会を設けていただきました。私にとって一番思い出深い経験はこのワークショップです。4 人の日本学生が 15 人程度の現地の学生に対して、カタカナを習字を使って教えたり、日本語の日常会話の練習等のアクティビティを行いました。限られた時間で現地の中高生に満足してもらえるように、グループやバディとワークショップについて何度も話し合った時間は大変ではありましたが、楽しい瞬間でもありました。私が住んでいる国の文化に興味を持っている高校生や中学生との交流はとても貴重でやりがいのある機会であったので、これからも行ってほしい活動の一つです。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

現地では、インドネシア語の授業とインドネシアの伝統的なダンスの授業を受けました。今回のボランティアプログラムに参加するには“ありがとう”のインドネシア語だけを知っている状態で参加しましたが、合計 3 回ほどの授業を通して簡単な文章を作る程度までインドネシア語を習得することができました。日本語と英語しか学んだことがなかったため、インドネシア語の文法や単語を学ぶのはすごく楽しかったです。授業を行ってくださった先生がとても明るく面白い方で、すごく分かりやすくインドネシア語を教えてくださいました。英語の教職課程を取っている私にとって、わかりやすく楽しい授業にするための工夫を学

ぶ良い機会になりました。また、farewell party に向けて伝統的なダンスを学ぶ授業も受けました。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

バンドンは少しだけジャカルタよりも涼しい気候でした。一日目には、歴史ある街に行きました。オランダ様式の建物が残っており、オランダによる植民地時代の歴史を感じました。夜には、その街の道路沿いにコスプレイヤーが集まっており、ハロウィンパーティーに参加しているようでとても面白かったです。私たちが泊まったホテルはとても綺麗で、朝のビュッフェもすごく美味しかったです。二日目には、インドネシアの伝統の音楽を体験できる場所に行きました。小さい子ども達と一緒に踊ったり、伝統的な人形劇や楽器を楽しむことができました。

③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200字以上）

私は海外に行くこと自体が初めての経験で、インドネシアに行く前は言語や生活の面で不安がありましたが、現地での時間はかけがえのない忘れられない思い出となりました。バディや先生に支えてもらいながら、日本ではできない経験をたくさんさせていただきました。ワークショップやバディに日本語を教える際に、私たちにとって母国語の日本語が外国語に位置するインドネシア人に、日本語の文法や単語を教えるのはとても難しかったです。相手の立場になって考え、絵や日常会話のアクティビティを取り入れる等の工夫を施すことによって、日本語への理解を深めることが出来ました。この経験から、自分の“あたりまえ”の枠組みを取り壊し、相手の立場になって考えることが協働していく上で重要であることを学びました。生まれた場所も暮らしてきた場所も違う世代との活動は、自分の視野が広がる貴重な経験につながりました。また、今でも連絡を取り合うほど仲良くなれた友人もインドネシアにいます。このプログラムは英語力の向上だけでなく、人と人との心のつながりを感じることのできる素晴らしいものであると思います。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

治安は心配していたほど悪くなく、夜中に寮の周りを歩いたことがありますが無事に帰れました。しかし、必ず対策は行っておくべきだと思います。お金はいろいろな場所に保管しておく、カード会社や緊急連絡先等のメモ、スマートフォンはポケットに入れたままにしないなどのオリエンテーションでの注意を守っていれば、盗まれたりすることはないと思います。寮にはゴキブリが出るので、現地のスーパーでゴキブリジェットを買うことをお勧めします。

2. 食事について

インドネシア料理は、油とスパイスがとにかく多いので、どれだけ口に合った食事でも、胃にダメージが積み重なっていきます。胃薬や日本食（味噌汁・レンジで食べれるご飯・お茶漬け）等を持って行った方がいいです。特に体調を崩した時は、インドネシア料理は重くて食べることが出来ないと思うので、味噌汁などを多く持っていくとよいと思います。私は味噌汁にたくさん救われました。生のフルーツ・レストランで出てくる水や氷・許容範囲外の辛い食べ物は食べないようにしてください。

3. 交通手段について

<p>基本的には大学のバスが送迎をしてくれます。お休みの時は、現地のタクシーがすごく安いので、タクシーを使うことをお勧めします。</p>
<p>4. 通信環境について</p>
<p>寮の WiFi がすごく弱くあまり繋がらないです。私は約 3 週間で 14GB の SIM を買いましたが、ぎりぎりでした。人によりますが、携帯を良く使う人は多めに考えた方が良いです。</p>
<p>5. 買い物事情について</p>
<p>寮付近にスーパーやコンビニがあるので、食べたいものや生活に必要なものは近場で揃います。また、モールがたくさんあるので休みの日にお買い物に行ったり、大学での活動後に先生にモールに行きたい旨を伝えれば連れて行ってくれます。ランドリーはモールにもありますが寮の近くにもあり、寮付近ランドリーの方が安いです。日本食を買いたいことがあれば、パパイアという日本製品専門のスーパーがあります。しかし、寮や大学から少し遠いので頻繁に行けるとは限らないと思います。</p>
<p>6. 医療事情について</p>
<p>日本人医師がいる J-Clinic という病院があるので、体調が悪いときは J-Clinic に行きたいという旨をリット先生に伝えれば連れて行ってくださいます。保険も効き、無料で診療を受けることができるので、海外で体調を崩すと不安が大きいと思うので、ためらわず行った方が良いです。</p>
<p>7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。</p>
<p></p>

以上